

講 義 1

ガイドラインに基づいた意思決定 -Overview-

E-FIELD

Education For Implementing End-of-Life Discussion

ガイドラインに基づいた意思決定

－ overview －



Education For Implementing End-of-Life Discussion

学習目標

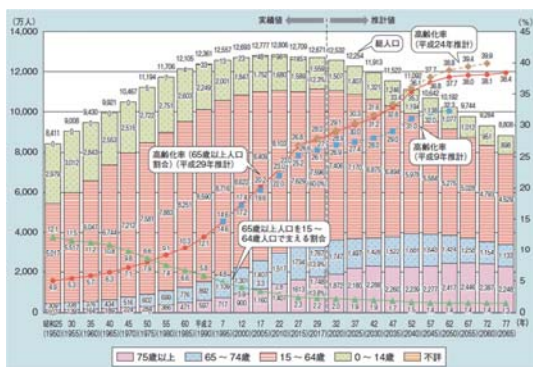
- 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの概要を説明することができる
- 人生の最終段階における医療・ケアの決定がなぜ難しいか説明することができる
- 本研修会がガイドラインに沿った意思決定のためにSTEP1-4のプロセスに分けて進められることを理解する
- アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）は、STEP2、STEP3のプロセスをより豊かにするものであることを理解する



Education For Implementing End-of-Life Discussion

高齢化の現状と将来像

内閣府 平成30年版高齢社会白書



Education For Implementing End-of-Life Discussion

人生の最終段階における医療・ケアの特徴

- 医学的な最善が本人にとっての最善とは限らない
 - － 「できる限り長く生きること」が必ずしも本人の望みではないことがある
 - － 苦痛がないこと、家族とできるだけいること、役割を果たせること、などが重要な場合もある
- 病状が不安定（今後の見通しが不確実）
- 本人の意思決定する力が十分とは限らない
- 家族等が重要な役割を果たす



Education For Implementing End-of-Life Discussion

終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン

- 2つの生命維持治療の中止に関わる事件
 - － 医師に対する執行猶予付き有罪判決
- 2007年 射水市民病院事件を契機に厚生労働省に「終末期医療の決定プロセスに関する検討会」設置。「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」公表



Education For Implementing End-of-Life Discussion

H30 ガイドライン改訂の要点

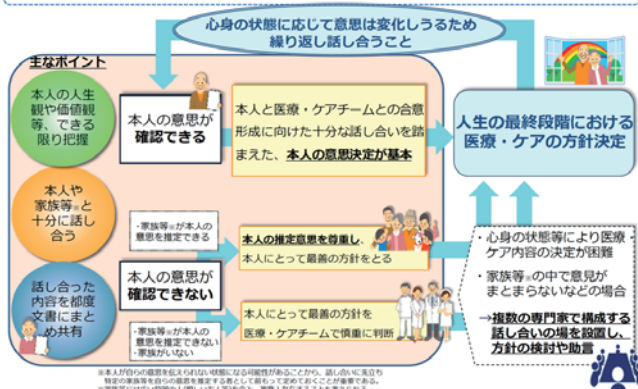
- 医療だけでなく介護の現場における普及を図ること
 - － 名称が医療→医療・ケアへ
 - － 病院だけでなく介護施設・在宅の現場も想定したガイドラインとなるよう、配慮すること
- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を盛り込んだこと
 - － 本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性があることから、その場合に本人の意思を推定しうる者となる家族等の信頼できる者も含めて、事前に繰り返し話し合っておくことが重要であること
 - － 本人の意思は変化しうるものであり、医療・ケアの方針についての話し合いは繰り返すことが重要であることを強調すること



Education For Implementing End-of-Life Discussion

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多職種チームからなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。



ガイドラインの骨子

- 一人で決めない、一度に決めない
- 本人と医療・ケアチームとの十分な対話
- そのうえでの本人の意思を尊重
- 意思決定ができなくなったときに備えて、家族等を含め繰り返し話し合う事が必要
 - －話し合いの結果は都度文書にまとめ共有
- 本人の意思が確認できないときは
 - －家族等も含め本人の意思を推定しそれを尊重
 - －医療福祉従事者は多職種チームで関わる



Education For Implementing End-of-Life Discussion

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多職種チームからなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。

